

宇治市総合計画審議会
第2回全体会
議事要旨

宇治市

第2回宇治市総合計画審議会 議事要旨

<開催年月日>2021(令和3)年4月28日(水)10時～

<開催場所>オンライン会議

<出席者>

・委員

真山 達志(委員長)	同志社大学政策学部 教授
多田 ひろみ(副委員長)	宇治市女性の会連絡協議会 会長
酒井 久美子	京都ノートルダム女子大学現代人間学部 准教授
白須 正	龍谷大学政策学部 教授
塚口 博司	立命館大学理工学部 特別任用教授
築山 崇	京都府立大学 名誉教授
稲垣 勝彦	京都府山城広域振興局 局長
鵜ノ口 悟	南山城地区労働者福祉協議会 事務局長
奥西 隆三	社会福祉法人宇治市社会福祉協議会 会長
小永井 宏子	宇治市国際交流協会 副会長
城市 哲	ソフトバンク株式会社 参与
竹内 理	宇治市連合育友会 副会長
多田 重光	公益社団法人宇治市観光協会 専務理事兼事務局長
長谷川 理生也	宇治商工会議所 専務理事
服部 広志	株式会社京都銀行 宇治支店長
平田 研一	一般財団法人宇治市スポーツ協会 会長
松本 嘉一	宇治市連合喜老会 会長
相川 道代	市民公募委員
下川 浩正	市民公募委員
薄田 徹	市民公募委員
高田 悦子	市民公募委員

谷口 宜秀	市民公募委員
寺川 徹	市民公募委員
日野 真代	市民公募委員
向山 ひろ子	市民公募委員
安井 大斗	市民公募委員
山本 互	市民公募委員

計 27 名

・理事者

松村 淳子	市長
川口 龍雄	副市長

・部長

秋元 尚	市長公室長
濱岡 洋史	危機管理監
貝 康規	政策経営部長
本城 洋一	総務部長
脇坂 英昭	産業地域振興部長
福井 康晴	人権環境部長
星川 修	福祉こども部長
藤田 佳也	健康長寿部長
平野 裕之	理事
小野 孝司	技監
五十嵐 司	建設部長
久下 伸	都市整備部長
畑下 茂生	議会事務局長
山田 雅彦	上下水道部長
伊賀 和彦	教育部長
梅永 聖児	消防長

・総合計画審議会事務局

遠坂 尚	所管副部長(政策経営部副部長)
大北 浩之	審議会事務局長(経営戦略課長)
佐々木 卓也	担当者(経営戦略課)
服部 和夫	担当者(経営戦略課)
藤丸 博克	担当者(経営戦略課)
大西 太基	担当者(経営戦略課)
小松原 紀一郎	担当者(経営戦略課)

計 25 名

<審議会次第>

1. 開会
2. はじめに
3. 基本構想の策定に係るキーワードの提案
4. 閉会

<会議内容>

1. 開会

【委員長】

それでは、定刻になりましたので、総合計画審議会を開会致します。まず、会議の開会に際しまして、連絡事項をお伝えします。現在、京都府に緊急事態宣言が発出されていますため、本日の審議会は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため傍聴は中止します。

2. はじめに

【事務局】

今回の審議会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、オンラインでの開催とさせて頂いています。それでは、会議を進める前に欠席者等のご報告をさせていただきます。

◇欠席者の報告(牧紀男委員、土井邦紘委員、吉田利一委員、吉村優一委員計4名)

◇団体委員の交代報告(稲垣勝彦委員、竹内理委員 計2名)

◇市人事異動に伴う新規理事者・部長の紹介(川口、秋元、脇坂、小野、五十嵐、山田、梅永計7名)

本日の第2回総合計画審議会の進め方を説明します。今回の審議会では、基本構想の策定に係るキーワードについてご意見を頂きたいと考えています。事前に配布している資料を参考に、市のまちづくりに必要な言葉や表現について提案をお願いします。

また、次回の第3回総合計画審議会では、本日の審議会の意見、本日の資料、市民アンケート結果などを踏まえて、基本構想(案)をご提示する予定です。基本構想を策定する上で、本日の会議は重要であるため忌憚のないご意見を頂けますようお願いいたします。

総合計画審議会の今後のスケジュールは、第2回が基本構想策定に係るキーワード、第3回が基本構想(案)の確認(5-6月頃)、中期計画(案)の提示(7-8月頃)を予定しています。

【委員長】

会議の開会にあたり、松村市長よりご挨拶をお願いします。

◇市長より開会挨拶

本日はご多用の中、宇治市の審議会のためにお集まり頂きありがとうございます。先ほども委員長や担当からご説明させて頂きましたとおり、本日はコロナの関係を含めてリモートでの審議会ということで、初の試みをさせて頂いています。そのため、皆様には何かと不自由な思いをさせてしまうかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

まず、平素より宇治市の市政・行政に対してご協力を頂きまして、改めてお礼を申し上げます。この総合計画は、来年度(令和4年度)からの12年間の計画となります。委員の皆様には、これからの宇治をどうしていくべきか、という基礎固めをして頂くこととなります。

これまでの間、公募委員の方々との意見交換、中学生や高校生の若い方々との意見交換をさせて頂きました。その結果を踏まえて、どのような宇治にしていくかについて、キーワードをご議論頂く時間を取らせて頂きたいと考えています。オンラインということでご発言をしにくいところもあると思います。また、意見交換という形ではなく、ご自分の考え方を述べて頂く時間になると思いますが、今回は少し辛抱頂き、その時間でしっかりと私共としてこれからの方向性を決めていきたいと思っております。

今回が第2回目ですが、これから今年度末に向けて総合計画の作成に向けて、議論を重ねていく過程の最初の場となります。この度は非常に短い時間で、かつ、リモートとなりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

3. 基本構想の策定に係るキーワードの提案

【委員長】

会議次第3、基本構想の策定に係るキーワードの提案について、事務局より説明をお願いします。

《資料③宇治市の基礎情報、市民意見等まとめ》

《資料④宇治市の基礎情報について》

《資料⑤総合計画策定に係る市民参画について》

【委員長】

それでは、説明でもありましたとおり、基本構想の策定に係るキーワードのご提案を頂くこととなります。まちづくりの方向性や将来の宇治市としてこうあってほしい、こうあるべきだという考えを示

すフレーズや単語などを「キーワード」と称すこととしますが、「キーワード」についてご意見を願います。

【委員】

キーワードや自分が気になることになりましたが、よく使う言葉で言うと「市民参画」「教育」「居住環境」「イノベーション・先進性」です。

「市民参画」は、市民の声が響くまち、市民の声をあげる仕組みがあり、市民が声をあげたことに対しての何らかのアクションが起こることが12年の長い期間であると嬉しいです。

「教育」は、各世代の意見の中にもありましたが、宇治のことを知らない、宇治をもっと知りたい、宇治らしさとは何か、ということがあったと思います。子どもたちは、小学校で宇治学の教育を受けていますが、宇治学と社会で地域を知る程度であり、宇治茶が何故ここにあるのか、交通の要衝として栄えたとはどういう意味なのかなど、郷土資料館やテレビでの紹介に加えて、もっと宇治の人が宇治を知る教育が必要だと思います。

「居住環境」は、6市町村平均と比較して、総世帯数に占める最低居住面積水準の世帯数が20ポイント程度低いことから、他の市町村と比べて最低居住面積水準を満たさない小さな家が多いと思います。12年の長期期間では、居住環境の改善も図らなければいけないと思います。個人的にはベッドタウンでもよいと思いますが、観光業と生業は常に両輪でなければいけないと思います。観光に土地などが取られていくことで、居住者のインフラが崩されることは京都市内でもありませんので、観光と生業は両輪だと思っています。

「イノベーション・先進性」は、12年の長期期間をみると、リーダーシップがあって、自分たちも誇れる、ここで先進を感じられるまちであればよいと思いました。

【委員】

観光の立場でのキーワードは、1つは「交流人口」つまり、昼間の観光客で宇治市の人口を上げて、かつ、それがすべて消費につながることであると思います。それから、現在はコロナ禍で観光が動いていないですが、今後、動き出す、もしくは完全収束すれば、最近浸透している「インバウンド」「外国人観光客」というフレーズがキーワードになると思います。また、京都市内や国内で非常にリピーターが多いため、何度でも訪れていただけるような地域として「リピーター」というキーワードをあげたいと思います。

また、宇治茶ブランド・世界遺産も含めて、宇治らしさの中でも、特に、宇治茶に関連する「体験型」というフレーズです。体験を求めてもらうことがリピーターにつながるため「体験」を組み込んでいければと思います。

ここ数年、スマホの普及により SNS が活用されるようになりました。スマホはキャッシュレスにも寄与し、外貨の両替が不要になる恩恵があります。今後さらにスマホが発展し、最新の情報がすぐに取りれると思いますので、「SNS」「情報発信」がキーワードとして入っていればよいと思います。

【委員】

私の田舎は京都府北部にあり、過疎化が進んでいます。農業はありますが、地域に大きな工場などがなく仕事がないため、若者が外に出てしまい、定住できないような状況にあると思います。その中でキーワードとして、「宇治ブランド」という言葉が非常に気にかかっています。資料3の人口や都市基盤から、宇治ブランドとして、また宇治市としてどう考えるかが重要であると思いました。

私の娘は、2年ほど前に京都市から宇治市に移住しましたが、その際に驚いたのは、医療費や子どもに対する施策が、京都市より優れていることを初めて知りました。子育ての世代の移住を促進するのであれば宇治ブランドとして、情報発信をしながら宇治の魅力をどんどん伝えていくことが必要であると思いました。さまざまな世代にとって必要なものは違いますが、宇治らしさを全面的に考えていくことが必要なのではないかと感じました。

宇治茶がありますが、宇治茶と言っても何がというところがわからないと思います。私の調べでは、宇治茶としての日本一は玉露と抹茶だと思いましたが、これらをさらに PR できる取組を考えていく必要があると思います。

また、木津駅周辺に広い大きなまちができています。まだ空き地もあり、さまざまな施設ができていくところを見て、住んでみたいと感じました。何か新しいものをそこで作っていけるということに非常に魅力を感じました。現在、宇治市にはさまざまな課題があると思いますが、他の地域にみられない「宇治らしさ」「宇治ブランド」ということが気になっています。

【委員】

コロナにより、市民意識の変化が進み社会不安への対応が必要であると思っています。これまでも意見を聴取されていると思いますが、これまでと少し変わってきているところもあると思いますので、その辺の対応や施策をお願いしたいです。

また、デジタルトランスフォーメーションの進展があり、一部産業に書かれていますが、産業だけでなく教育など多くの分野が変わってくると思いますので、その対応も基本構想でお願いしたいと思います。

広域的な観点で言うと、宇治市は京都府南部地域の中心地であるため、南部地域の発展は宇治市が牽引するという意気込みを持った計画にしてほしいです。また、周辺市町村との連携もしっかりと基本構想にいただければと思います。また、JR 奈良線の複線化や新名神高速道路の開通等も控えているため、これらを宇治市としてどのように地域の発展につなげていくか、また、近隣市町は宇治市に何を求めているか、という観点も踏まえながら基本構想をまとめて頂ければと思います。

【委員】

現在、大学で社会的企業やソーシャルビジネスを研究していますが、その観点から、総合計画を作る中での課題、いわゆる地域課題を生業にして解決することが、メディアや社会的に注目されていると考えています。これらを支援する制度、具体的には「チャレンジしやすいまち」「チャレンジを応援するまち」「イノベーション」などの文言を入れて頂きたいと考えています。

社会課題をビジネスにする背景は、SDGsや持続可能な社会を作っていくことが社会的に盛り上がってきている中で、時代に沿ったことを意識している姿勢を示してほしいです。

【委員】

資料3の分類で、人口、教育・文化、産業経済、健康福祉、生活環境、自然環境、都市基盤など、どれも非常に大事であり、すべてのバランスが大事だと思いますが、今回の計画における12年間という長期期間に耐えるフレーズは、普遍的な「安心・安全」「住みよいまち」などのわかりやすい言葉の方が市民に伝わるのではないかと思います。個別の項目は個別の政策に掲載し、基本構想の言葉はできる限りわかりやすい言葉の方が、長い期間耐えられるのではないかと思います。

【委員】

「人口問題」が大きなキーワードであると思います。人口減少を防ぐためには「福祉の力」「手厚い福祉」が必要でキーワードになると思います。その中でも特に「切れ目のない福祉、切れ目のない支援」というものが重要だと思います。例えば、8050問題の中で80への支援はできています

が、50の中で支援ができていない部分が出てきています。そのため、切れ目のない支援が必要であり「手厚い福祉」をキーワードに入れて頂きたいと思います。

【副委員長】

資料を読み、他の委員からも話があったとおり、南部地域の中心としての宇治と言いながら、近隣6市町村と比較してデータは低いという言葉が多く、少し寂しい気がしました。本当に、これからチャレンジする宇治ということが大事であると思いました。

この3月に市制70周年を迎え「安心、躍動、再スタート」がテーマになっていることを市政だよりで知りました。事前資料から人口の推移が転入より転出が多くショックを受けていましたが、そのような中で新たなふるさと宇治の構想に向けた予算を決めたということを目にしました。世代共通のキーワード（「宇治ならではの」「宇治らしさ」「多世代交流」「子育て環境」「高齢者の活躍」「働く場所の確保」「情報発信」）にもあったように、「宇治らしさ」「宇治ブランド」「宇治の魅力」などを「輝く宇治」という形で予算の中での市長の想いがあったため、「輝く宇治」「新たなふるさと宇治」を入れて頂けたらと思います。

また、市民参画も教育も大事であり、資料の中で教育・文化の中の幼稚園の数や小学校、中学校の教員数が6市町村と比較して低いという、今からどのような宇治市を作っていくか、今の未来の青年たちにとっての大事な教育が少し気になりますが、今からまた輝く宇治に向かってということを入れて頂ければ、そのような宇治に住んでよかったと一人ひとりが感じてもらえたらという思いを感じたので、提案をさせて頂きたいと思います。

【委員】

私は、普段から子育て支援に携わっているため、子育て支援の観点から話させて頂くと「ワンストップで丸ごと切れ目のない支援」というフレーズです。

毎年発行されている子育て支援情報の中にも、妊娠出産から子育てまで切れ目のない支援という言葉が出ています。しかし、包括支援センターの支援先の電話番号が4つ掲載されているなど、現状はワンストップになっていないと感じます。子育てと親の介護、ダブルケアをしている中で、どこに電話したらよいのか迷ってしまうため、どのような問題でも受け止めるワンストップの支援が必要であると思います。相談に行ったら各課が来てくれてワンストップで受け止めてくれる相談体制が必要だと感じています。

また、「丸ごと」という言葉は私がよく使う言葉ですが、私の場合「母」「妻」「娘」「嫁」などさまざまな役割がありますが、すべてひっくるめて丸ごと「私」であり、私が働いている地域子育て支援拠点でも丸ごと私サロンがあり、どのような話も聞くこととしています。このようにワンストップで丸ごと切れ目ない支援が必要と思います。

それ以外には「繋ぐ」「コーディネートする」です。人は自然には繋がらないため、必ず人がいる「結び付ける人」がキーワードとして必要であると思います。また、長い期間で考えると、子育てと高齢者の介護の2つをどのようにしていくかかと思えます。抱える課題が今、多岐に渡っています。子育てをしている家庭でも、子どもの発達の問題を抱えているとか、夫婦の問題やDV、自身の病气、ダブル介護、ヤングケアを含めてワンストップで丸ごと切れ目のない支援が必要であると考えました。

【委員】

基本構想のキーワードは、抽象的・総合的なキーワードを考えました。資料3にもある「SDGs」は、あらゆる分野で関係してくると思います。今後、SDGsを宇治市らしくどのように進めていくのか構想することがとてもよいことだと思えました。

また、安全・安心の地域づくりが、現在コロナ禍でどうなっていくかわからないような状況の中で、「新たな地域づくり」「安心安全の地域づくり」「地域環境づくり、関係性」が重要になると感じました。12年間のスパンでさまざまなものが変化していく中で、これに耐え得るキーワードがよいと思えます。

また、以前、地域福祉計画の策定に関わらせて頂いたときに、さまざまな魅力的な活動があるが、それが十分に伝わっていないと感じたため、これを伝えていくことが大事だと思えました。このような活動は年齢の高い方が多いため、今後どのように継続していくかが課題であると感じました。若者と高齢の方などさまざまな交流や活動継続のため、何をどうするのがよいか考えていくことも大事であると思います。コロナの状況を踏まえた交流の場や居場所づくりを今後どうしていくか考えていくことが大切ではないかと考えます。

【委員】

市民参画の中で「まちづくりは人づくり」だと思っています。住んでいる私たちがまちを作っていくと思っていますので、「市民の人づくり」に力を入れていってほしいです。

これから高齢社会で高齢者が増えますが、その中でも女性はとても長生きで元気な方が多いため、元気な女性を活かせるようなまちづくりをしてほしいです。また、リーダー的な方を輩出できるような仕組みづくりをして頂ければと思います。

また、来年度からコミュニティスクールが開始されるが、学校を核とした地域づくり、地域の皆さんが入り、地域を活性化していくため、これは大きく掲載してほしいと思います。

個人的には「宇治の歴史が香るまち」という言葉がとても好きであり、宇治と言えば歴史とお茶だと思います。宇治橋で深呼吸ができるような宇治市を願っています。

【委員】

国際交流の観点から外国の方を考えています。正確な数字はわかりませんが、市内に3000人以上の外国人が住んでいると思います。その中で必要なことは言語だと思います。宇治市にある日本語教室(4ヶ所)への支援が必要であると思います。また、外国人は、日本語を勉強していても、災害への不安を持っているため、優しい日本語などの資料の用意や有事の際の知識を教える支援も必要であると思います。また、一番大事なものは住宅であり、京都市では収入によって住むことができる家があると聞くため、宇治市にもあればよいなと思います。そのため、「外国人にも優しい宇治」がキーワードとしてあればよいと思いました。

【委員】

「異世代がつながってお互いに助け合えるまち」がキーワードと思っています。宇治市も少子化が進んでいるため、少子化対策として子育てをしやすい環境を整えることであると思います。子どもや子育てをしている世代がつながることで、暮らしやすいまちにしていくことが大切だと思います。さまざまな世代が助け合うことにより、子育てをしている世代をフォローできると思いますが、私自身も子どもが小さい時に地域の人に助けて頂いたので、さまざまな世代の人が助け合えるまちをキーワードに考えています。

【委員】

宇治市の基礎情報にある昼夜間人口比率が非常に低いこと、社会流出が目立つことから、産業・経済について話したいと思います。

地域の維持には、産業が重要であり「所得を稼ぐこと」「稼いだお金を地域で循環すること」が重要だと思います。所得を稼ぐという点では、宇治市の場合は「お茶」「観光」「ものづくり」が非常に

重要であり、この3つを中心に「バランスの取れた産業のまち」「活力あふれる産業のまち」にしていくことが重要だと思います。また、地域の商業、産業を支える中小企業が継続できるようなことも重要であり、「市民生活を支える」「地域経済が持続的に発展するまち」という観点が必要ではないかと思います。

また、働く場所の確保や産業の振興を通じて、多くの人が宇治で働き、結果的に社会流出、昼夜間人口の改善が図られるため「若者から高齢者までいきいきと働けるまち」といった観点が必要であると思います。

【委員】

大きなキーワードとしては、働く者としては「安心・安全」を入れてほしいと思います。資料の意見にもありますが、このキーワードはすべての項目に関わってくると思うため、働く者であれば「安心して働ける」「安心して通える」、家族であれば「安心して子育てができる」「出産できる」「子どもが安心して通学できる」「安心して学べる」といった点から言うと、「安心・安全」を必ずキーワードに入れてほしいと思います。

【委員】

「安心安全」「コミュニティ」「宇治ブランド(ブランド化)」「SNSの活用」などがさまざまな世代で共有しているキーワードであると思います。また、「未来創生」もキーワードとして入れて頂ければよいのではないかと思います。

また、世間一般の潮流、「SDGs・持続可能な開発目標」が横串ですべてに入るような使い方をしてほしいと思います。

【委員】

皆さんの話を聞いて「にぎわいのあるまちづくり」がキーワードとして浮かびました。地域の中でお金を循環させることを改めて感じています。また、人と人とのつながり作りがとても大事であるとコロナ禍で改めて感じています。これまで、NPOの活動を14年間続けており、思いを持って活動してきましたが、思いだけでは活動を継続していくことが難しいことを実感しています。その中で、宇治市健康づくり食育アライアンスのコーディネート業務をさせていただきましたが、さまざまな思いを持った地域の皆さんと出会う機会があり、「地域の宝物は人」と思いました。そのため、地域の財産である人をどのように今後のまちづくりに活かしていくのが大事なのか考えています。

先ほどのコミュニティスクールの話がありましたが、私も 20 年間ほど学校法人に勤めていて、これまでは知識を教えることが先生の仕事でしたが、これからはコーディネーターが先生の役割に変化していくと思います。地域の人が先生になりさまざまな経験や知識を教えていただけるようになれば素晴らしいと思います。

また、宇治市健康づくり食育アライアンスには現在 63 団体に参加頂いています。参加団体が集まった理由は「健康づくり」というキーワードになっており、これがさまざまな団体をつなげていると気づかせてもらいました。健康に関わる病院の先生や保健師だけでなく、多様な人が参加していますので、横につながる場をもっと広げていくことが賑わいのあるまちづくりに重要であると感じています。

【委員】

PTA の立場からは、令和 4 年度から宇治市でも全小学校でコミュニティスクールが開始されるため「地域とのつながり」がキーワードになると思っています。小学校の PTA 会長をさせて頂き、改めて教育は地域の方の協力があって支えられていることを実感しました。一方で、コロナ禍により人と人との交流が希薄になってきているため、改めて「地域」「多世代交流」のキーワードを入れてほしいです。また、授業を受けにくい社会情勢の中で、ICT の活用が教育でも必要になると思いますので、教育分野で ICT の活用を検討して頂ければと思います。

【委員】

宇治市市民憲章にある宇治市のシンボルである市の宝木「ちやの木」、市の花「やまぶき」、市の木「イロハモミジ」、市の鳥「カワセミ」など、元々提示されているものがあります。また、第 1 回審議会で配布された「総合計画策定についての基本的な考え方」に記載のある市の財政の切迫や労働人口や少子化での人口減少を踏まえてビジョンをつくるということが明示されています。

また、総合計画がわかりにくいという市民意見がありますが、わかりにくい理由は、市役所には組織がたくさんあり、市民ニーズが多岐に渡るためであると思います。今後の総合計画の策定では、市民憲章やシンボルから降ろし計画を市民に提示することが、わかりやすくする一歩であると思います。

また、可能であれば、市民憲章は市から市民に守ってほしいメッセージであると受け取っていますが、行政もひっ迫していくのであれば、行政も市民と今後の形を共有できるようなメッセージとな

るよう市民憲章へ変更することも考えられます。私の方では、キーワードの前提を今一度確認して案を出して頂きたいです。

【委員】

資料3の都市基盤について、市民の方々や多様な年齢層の方々の意見・希望を見ると「交通」が身近であるため関心が高いと思います。そのため「持続的な交通システム」がキーワードであると思います。宇治市は、市外との交通は比較的便利ですが、市内の交通が不便であるという現状があります。今後、交流人口を増やす、また元気なお年寄りを含めて外出率や賑わいを高めるため、交通システム、特に、公共交通はコロナ禍を過ぎてもかなり厳しいと思いますので、持続可能な交通システムが必要であると思います。

【委員】

12年間の長期期間になることやSDGsなどを踏まえて「開かれたまちオープンシティ」をキーワードとして提唱させていただきます。今、巷ではスーパーシティやウーブンシティなどの言葉が出てきていますが、フリーには「エイジフリー」「バリアフリー」「ジェンダーフリー」「インバウンドへの言語のフリー」などがあります。

また、観光に関しては、平等院を中心とした資源があるものの滞在時間が短いため、消費でお金が落ちる効果が期待できていないため、京都市南部との連続性を持たせた観光施策の立案を考える必要があります。

産業経済の分野では、在宅勤務が増えています。しかし、在宅勤務ストレスの解決のためのパブリックなコワーキングスペースを整備し、サラリーマンが環境を使い分けて仕事ができるようにすることが考えられます。在宅勤務の導入率は大企業が高くなっているため、比較的所得が高いサラリーマンを呼び込むことで利用料を市の収入源にすることが考えられます。

また、外国人への言語フリーに加えて、情報開示への多言語対応やチャットボットを利用したWebでの自動応答など情報提供の面的拡大を図り、すべてにおいて開かれたまち、オープンシティを提唱したいと思います。

【委員】

キーワードについて、市民向けの部分と市から外へ向けて発信する部分の2つがあると思います。今までのキーワードはほとんどが市民向けであると思います。外から見るとこのようなことをやらなければならない市はどうか、と思われてしまう。これは、市民向けの取組をまとめて発信しなければ、市に入ってくる方より市外へ出ていく人の方が多いため、人口流出を促進しかねないと思います。

また、宇治市には昼間時間帯に若い人がいないため、何か発信して解決していく必要があると思っています。一つは「産業」、一つは「教育」です。教育環境が整い、大学まできちんと勉強できるような環境があり充実していれば、子どもがいる世帯にとっての大きな魅力になります。大きなくりの問題と日常生活で解決していかなければいけない問題を切り分けて、キーワードもしくは基本方針としてのキャッチフレーズを作った方がよいと感じました。

【委員】

「まちづくりはひとづくり」がキーワードだと思っています。特に、「人」をととても意識していて、他人事から自分事にどのように考え方を変えていくかが重要と考えます。12年の長い期間があるので時代認識をしっかり押さえておく必要があると思っています。

不安の解消や明るい話題も大事だと思いますが、市役所は市民の役に立つ場所であるという意識でやってほしいと思います。また、不安の解消は、ソーシャルビジネスなどビジネスとして推進していくこともSDGsや持続可能な社会づくりになると思います。

また、たくさんのアンケートでスポーツへの言及がほとんどなかったことが残念です。スポーツや芸術は不要不急で切り捨てられようとしています。そこを入れてほしいと思います。また、宇治ブランドもとても大事ですが、日本一も意識してほしいと思います。人も含めて日本一という部分もありますので、意識して入れてほしいと思います。

また、不安の解消については、宇治市では認知症の取組が積極的に行われていますが、認知症への不安をゼロにする取組が必要であると思います。

【委員】

資料にある宇治市の地勢には、バスや交通網が張り巡らされているという表現がありましたが、バス路線は近年著しく縮小されています。その中で、人間の存在の基本として、移動手段を確保することは非常に大切なことです。人類は移動することで成長してきたように思いますが、例えば、

パーソナルモビリティなどを活用することで、体を動かし、心を動かすような運動と感動に結び付けていくためにも、交通移動手段の確保が大切だと思いました。

また、資料4にある年齢構成の変化は、生産年齢人口の減少による労働力の低下を懸念するという表現がありますが、現在、超高齢社会という状況に宇治市もあると思います。このように社会の先端で起こっていることをプラス視点で考えていく必要があると思います。私が連合喜老会で常に語っているのは、心を広く、明るく、楽しい活動を進めていく、それにより、3世代が夢語り合うまちづくりをしようと考えています。宇治は、古代の菟道稚郎子尊の頃から、山城国一揆、あるいは近世のお茶所宇治として、お茶の心を全国に伝えていった人々、古代からずっと宇治の都市を考えると、宇治川の恵みと災いの両方の中で一般市民が懸命に生きてきたため、共に生き、共に分かち合って生きていくことが非常に大切であると思います。

資料の福祉と医療に、宇治市は病院の数や介護の施設数が少ないとなっていますが、これからの宇治の基幹産業として、健康と福祉、医療と介護を基幹産業として一番重点を置いて考える必要があるのではないかと思います。生命と生活を守って豊かにしていくことが大切であると思います。

【委員】

一口に言っても、宇治市はさまざまな地域の特性があると思います。宇治から志津川や炭山など交通や社会基盤で見ても多様であるため、さまざまな地域特性から構成されていることを重視して全体を考えてほしいです。具体的には、地域のさまざまな資源や環境を活かして魅力・活力を引き出していくことが必要であると思います。産業、文化、自然などさまざまであると思います。

また、専門分野から言うと、人・学びを軸に据えて頂きたいと思います。学びは子ども世代だけでなく、大人世代の学びが大切であり、参画していく市民自身が自ら力をつけていくことが必要で、特に、今後の十年、十数年の時間軸で見た場合に、学びを視点の軸と考える必要があると思います。そのため、「学び」「人が育つ」「まちが育つ」というキーワードが重要です。また、宇治市の持っている社会地理的、自然環境的な様々な要素から構成される多様性を計画に位置づけてほしいです。

事務局にお願いしたい点ですが、宇治市の各地域の特性などがイメージでわかるような図を用意して頂きたいと思います。また、時間軸(過去・現状・未来)でインフラ面、人口構成面、産業面、それぞれの時間軸を立てて検討していく必要があると思います。基礎資料のデータは、宇治市全

体となっていますが、宇治市内の各地域の基礎資料、基礎データを手元において今後考えていきたいと思っておりますので、準備をお願いしたいと思っております。

【委員】

産業の観点から、京都府南部地域の第二の都市にふさわしいまちづくりを計画に盛り込んで頂きたいと思っております。特に、都市基盤整備、道路網の整備(特に道路網は東西に弱い)など働き手に来て頂くため産業誘致策にも取り組んで頂きたいと考えています。このような取組が定住人口や税収の増加にもつながると考えます。また、他の計画と併せて、交流人口の増加が図れ、まちのにぎわいや活性化にもつながると考えるため、12年間でこのような成果につながることを大いに期待しています。宇治市は恵まれた地の利(鉄道が14駅あるなど)があると思っておりますので、利点を生かした計画としてほしいと思っております。

【委員長】

今、コロナ禍でいつ収まるのか先が見えない状況ではありますが、ポストないしはアフターコロナという時期が来ると思っております。今までの社会の仕組みや世の中の常識が必ずしもベストではなかったこと、もっと新しい取組や関係があることが幸いにも見えてきたと思っております。コロナが過ぎ去ってすべて元に戻すということではなく、今回学んだことを活かして新しい生活や新しい社会を目指していくことが大事な考え方や方向性であると思っております。

そのような点から、感染症対策の考え方やSDGs、例えばプラスチックごみを減らすにしても、新しいライフスタイルや経済の仕組みを作っていく必要があると思っております。また、LGBT(最近ではLGBTQ+)など、ジェンダーの問題もこれまでの常識や概念が変化してきているため、社会変化に対応する計画としていくことが重要であると思っております。

また、行政ももっと提案してよいと思っております。市の提案だけでも市民の納得は得難いことから、新たな方向性、考え方、価値を提案していく場面では、策定段階での市民参画が重要であると思っております。新しい時代、新しい生活、新しい経済などの動きがあり、「新しい」ということが重要であると感じています。それでは、事務局から何かありましたらお願いします。

【事務局】

たくさんのご意見を頂き、有意義な会議になったと考えています。今後、基本構想の案をまとめるにあたってどのようにまとめていくか難しいと感じていますが、12年間という長期の計画の中で

「安心・安全」「新しい生活・時代・社会」「人づくり」など重要なことをどのように表現し作っていくか
頂いたご意見をしっかり精査し、次回ご提案できればと思います。非常に多岐に渡るご意見をい
ただきありがとうございました。

4. 閉会

【委員長】

それでは、予定していた議題は以上になります。

閉会にあたり松村市長からご挨拶をお願いします。

◇市長よりご挨拶

委員の皆様には、多岐に渡るご意見を頂きましてありがとうございました。リモート会議という
ことで、いつもと違う緊張感、いつもと違う感じで皆様一人ひとりからご意見を伺うことができた
と感じています。

大変多岐に渡るご意見を頂いたということは、それだけこれからの宇治に対する期待や希望
を持って頂いていると改めて感じました。12年間という総合計画、私共として今回頂いたご意
見をしっかりと踏まえて基本構想をまとめていきたいと思います。また、今回頂いた意見の中
には、基本構想にまとめるというより、中期計画など具体的な部分に取り入れていくべき内容もあ
ったと思います。そのようなところも踏まえて、次のステップに進んでいきたいと思
います。

大変長丁場の計画策定になりますため、引き続き皆様方にはお世話になりますようお願い
申し上げます。

【委員長】

それでは、以上をもちまして、閉会とさせていただきます。

---了---